



静岡県教育委員会  
教育広報紙

自立し、互いに関わり合いながら、よりよい社会づくりに参画し行動する「有徳の人」の育成を目指して

# Eジャーナルしずおか

令和2年(2020年)  
11月5日  
木曜日  
第229号

発行・編集 教育政策課 〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL 054-221-3674 FAX 054-221-3561 E-mail kyoui\_seisaku@pref.shizuoka.lg.jp

## 小中学校WG

テーマ

業務改善『夢』コーディネーターの育成

- ◆教職員が児童生徒と向き合う時間や授業準備の時間、自己研鑽の時間を確保することにより「教育の質の向上」を目指す。
- ◆長時間勤務を是正することにより「教職員の心身の健康の保持増進」を目指す。



内容

各学校の業務改善への工夫や取り組みをさらに一歩前進させるために、新しい視点や発想から業務改善を見直すことを目的とし、各市町の若手教員の中から「業務改善『夢』コーディネーター」を選出し、各地区のコーディネーターを育成する。



動画視聴はこちら

## 高等学校WG

テーマ

勤務時間管理システム等を活用した時間外勤務削減の取り組み

- ・三者面談でICT機器による一元化した情報を活用することによる面接時間の削減
- ・生徒情報、入試情報、部活動活動日等の情報の共有化や一元化による業務の効率化
- ・ICT活用の知見は、新型コロナウイルスによる休校時の対応にも活用されている。



内容

教職員の勤務時間データを活用し、各校の取り組みと教職員の勤務時間削減への効果を分析し、その成果を見える化することで、分析の手法や取り組みの成果の共有や活用について、効果的な共有の方策を検討する。



動画視聴はこちら

# 令和2年度学校の働き方改革推進プロジェクト

「学校における業務改革プラン」に基づいた学校の業務改善を一層推進するため、学校の働き方改革推進プロジェクト本部会議(場所:静岡県庁)が9月4日に開催されました。今回、新たな試みとして実施した、4つのWGのポスターセッションの様子をご紹介します！このポスターセッションで委員から挙がった意見や課題等を、「教職員一人一人につながるより良い業務改善のために」という強い気持ちで、継続的に検討していきますのでご期待ください。

## 特別支援学校WG

テーマ

教職員一人一人が実感できる業務改善の取り組み



内容

学校現場において、管理職と教職員の結末点となるミドルリーダーの声から業務改善項目を洗い出し、焦点化することで一人一人が実感できる業務改善へつなげていく。



動画視聴はこちら

## 学校事務WG

テーマ

新しい事務室の具現化

学校経営により幅広く参画できるような事務職員像を校長先生も含めた学校全体で考えていきたい！



内容

持続可能(定数減対応)で、業務改善(職域拡大)に対応した「新しい事務室」の具現化

区分	内容	
業務	学校ごとに処理実施	○システム化により業務の効率化 ○システム化できない業務の処理方法を全県統一 ○学校経営への参画と職域拡大
	地区ごとで共同実施	○工事事務の集約化、その他効率化できる業務の集約化
	全県集約処理	○全県での定型的な総務事務の集約化
人材育成		○教育行政未経験者の業務習熟研修の充実 ○教育行政コア人材の育成体制の確立



動画視聴はこちら

総括

本日の「学校の働き方改革推進プロジェクト本部会議」ではさまざまな意見が出て、改革のためのプランも提案されました。学校の働き方改革は業務量削減のみならず質の確保も大切であり、両面において進めていく視点が重要です。

また、教師と児童・生徒のつながりは人格形成にとって重要です。つながりという点では、私は今でも恩師との交流が続いています。子供たちが憧れる仕事となるよう教職員の魅力化に取り組んでいきましょう。



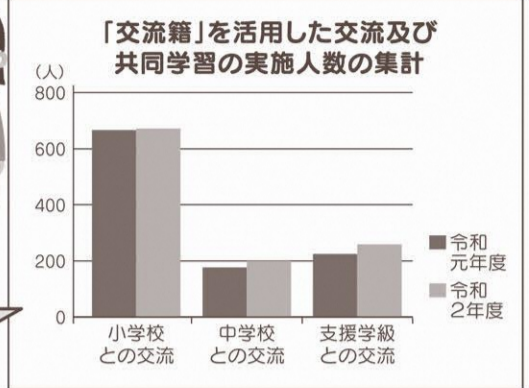
木苗教育長



# 「交流籍」を活用した交流及び共同学習で

# 地域とのつながりの充実を!

特別支援学校に通う子供たちは、地域の学区を離れて特別支援学校に通うため、地域との関わりが薄くなる傾向にあります。そこで、県教育委員会では、地域の小中学校に副次的な「交流籍」を置き、共に学ぶ機会を設けることで居住地域との関係を深め、地域の一員として共に支え合いながら育つ共生社会の実現を目指しています。



令和元年度より県内での全面実施となり、今年度で2年目を迎えています。

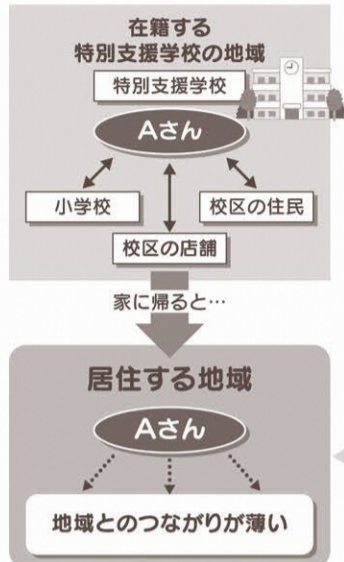
右上のグラフは、令和2年8月末時点での集計結果です。令和2年度の集計数は計画段階のものとなりますが、小学校が昨年度より6人増の672人、中学校が23人増の200人、特別支援学級との交流を希望している数が34人増の259人となり、いずれも増加となっています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、手紙やビデオレター等による「間接交流」となるケースも多くあり、居住地域での交流を断念されるケースもありましたが、交流希望者数が増えているところに、「交流を実施して良かった・継続したい」という児童生徒や保護者の思いが反映されているのだと思います。

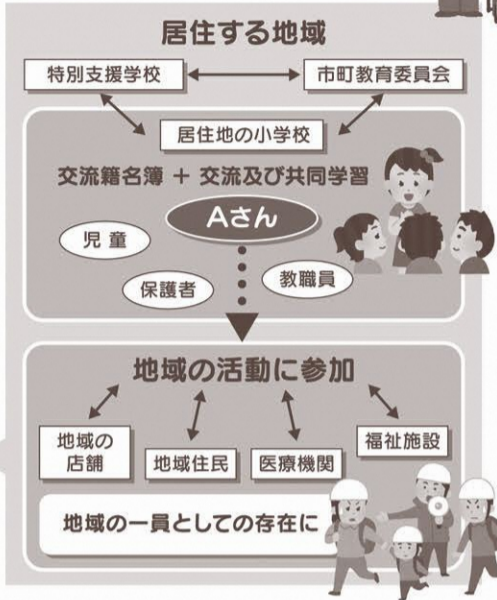
交流籍を活用した交流で、特別支援学校の児童生徒だけでなく居住地域の児童生徒にとっても、さまざまな触れ合いの経験を重ねる中で、地域の一員としての社会体験を広げたり相互理解を深めたりし、多様な価値観で人や物事と関わる力を身に付けることにつながると考えます。

【特別支援教育課】

### これまでの状況



### 令和元年度から「交流籍」を活用した場合

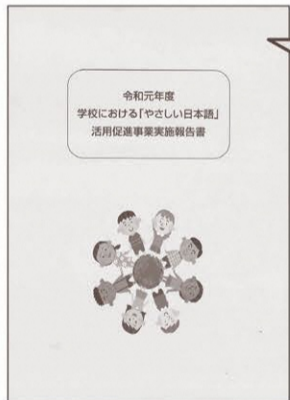


## 外国人児童生徒等への教育支援 ～「日本語による日本語指導」の普及～

県教育委員会では、外国人児童生徒等に対する支援を充実させるため、さまざまな事業を行っています。ここでは、その一環として行っている「日本語による日本語指導」の普及についての取り組みを紹介します。

### 「やさしい日本語」活用促進事業

「やさしい日本語」とは、普段使われている言葉を、外国人にも分かるように配慮した日本語のことです。日常生活の場面や身近な話題なら対応できる日本語能力の人が分かるくらいの日本語です。



学校における「やさしい日本語」の活用事例は、この報告書をご覧ください(各学校や市町教育委員会に配布済み)。昨年度、モデル校(沼津市立第五小学校・焼津市立和田小学校)において実践した取り組みや成果が詳しく記載されています。

本年度は、焼津市・袋井市・清水町・磐田市において、「学校における「やさしい日本語」研修会」が開催されました。

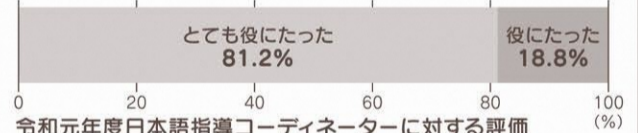


### 日本語指導コーディネーター訪問支援

日本語による日本語指導を充実させるために、日本語指導コーディネーターを各学校や市町教育委員会に派遣しています。日本語指導だけでなく教科学習につながる指導方法について支援しています。



各学校の実態に応じ、きめ細かな支援をします。



【義務教育課】

## 動画やLINEで 県政情報を発信

### 県YouTube 公式チャンネル

職員自ら動画の企画、撮影、編集、配信を行い、県の仕事や魅力を動画でわかりやすく紹介しています。チャンネル登録をお願いします。

【動画の例】 県民だより紹介、ICT教育、防災講座、南アルプスを守る話 など



動画視聴はこちら

### 県LINE 公式アカウント

県民の皆さまに役立つ県政情報をお届けしています。このアカウントは、セグメント機能により登録者の興味・関心に沿った情報を配信します。友だち登録をお願いします。



友だち登録はこちら

静岡県知事戦略局 広聴広報課

## 生徒の皆様が世界に目を向けるきっかけに! ～地域外交チャンネルを開設しました～

急速なグローバル化が進展する一方で、新型コロナウイルス感染症の拡大により出入国の制限がかかるなど、私たちを取り巻く国際情勢は日々大きく変化しています。このような状況を捉え、静岡県地域外交課では「地域外交チャンネル」を開設し、海外の最新情報や先進的な取り組みのほか、国際情勢の動向など、世界の今が分かる情報を定期的に発信しています。

生徒の皆さまが世界に目を向け、自らの将来を考えるきっかけづくりのため、授業の一環として、ぜひ活用してください。

### ■実施状況及び申込方法

実施日時	毎週火曜日 午後4時から5時まで(祝日等を除く)
テーマ	経済・観光・国際情勢など
講師	中国・韓国・台湾・東南アジアで活躍する県海外駐在員や外交官として豊富な経験を積んだ県補佐官など、国内外で多彩な活動をされている方がお話ししています。
参加費	無料
視聴の申込方法	「静岡県地域外交チャンネル」のウェブページからも申し込みできます。
その他	「静岡県地域外交課 公式YouTubeチャンネル」にも掲載しています。こちらをご利用ください。



申し込みはこちら

Regional Diplomacy Channel  
静岡県地域外交チャンネル

問 静岡県地域外交局地域外交課 TEL 054(221)2309 Eメール kokusai@pref.shizuoka.lg.jp

### 視聴者の声

- ★各国の生の情報を聞くことができ、多くの学びがあった。
- ★現地駐在員ならではの話が聞けてよかった。
- ★コロナ収束後に外国人に來静してもらうために何をしたらいいのかなどを知ることができた。

総合教育センター **静岡県とモンゴル国の連携** ~コロナ禍でもオンライン上で交流を継続~

静岡県総合教育センターは、モンゴル国との連携協定に基づき、毎年度モンゴル国の指導主事を受け入れ、センターでの研修や学校訪問(小・中・高・特別支援)等を行う教員研修プログラムを提供しています。今年度はコロナ禍で受け入れが出来ませんでした。オンラインミーティングを開催し、交流の継続を確認しました。

令和元年度までの経緯

- ◆平成27年8月 「日本国静岡県とモンゴル国教育・文化・科学省との教育・文化・科学分野での交流に関する覚書」締結
- ◆平成28年～現在 モンゴル国の指導主事受け入れ開始
- ◆平成30年12月 「日本国静岡県総合教育センターとモンゴル国教員教育研修センターとの連携協定」締結



▲教育長表敬訪問(令和元年度)



▲オンラインミーティング(令和2年度)

令和2年度のオンラインミーティングの内容

- ◆8月25日(火)、総合教育センター、モンゴル国教員教育研修センター、県教育政策課の3者でZoom上でのミーティングを開催
- ◆教員研修分野で静岡県が有する経験やノウハウ提供の相談
- ◆コロナ禍でもオンライン上で交流を継続することを確認
- ◆今年12月までとなっていた連携協定の延長を議論

静岡県総合教育センター



「県内すべての小学6年生を交通安全リーダーとする交通安全教育活動」が第41回国際交通安全学会賞(業績部門)を受賞!

静岡県が取り組んでいる「県内すべての小学6年生を交通安全リーダーとする交通安全教育活動」が、理想的な交通社会の実現に貢献したとして、川勝知事と木苗教育長は8月28日に行われたウェブ贈呈式に県庁から出席し、同学会の武内和彦会長から2019年度の国際交通安全学会賞(業績部門)を受賞しました。

静岡県では、児童の交通事故防止対策の一環として、「交通安全リーダー制」という全国的に類稀なる交通安全教育活動を、県内すべての小学校で行っています。交通安全リーダー制は、「より良い交通安全環境づくりとともに、小学校高学年生を交通安全リーダーに指名してリーダーワッペンを着用させ、リーダー自身が交通ルールの規範を示すとともに、下級生の交通マナーなどを指導させることを通じて、

悲惨な子供の交通事故を根絶しようとするもの」として始められました。

県内すべての小学6年生が交通安全リーダーとしての自覚を持ち、危険箇所マップの作成や地域関係者との意見交換に関わることによって、安全な地域づくりを警察や行政や他人に任せるのではなく、地域社会への主体的な関わり方と関心を身に付けることが期待されています。

国際交通安全学会賞 The IATSS Award



業績部門

理想的な交通社会の実現に関して、  
1. 研究、施策の推進、普及、啓発等  
2. 機器の開発あるいは設備、施設の建設等に多大な業績をあげたものを対象に、過去3年以内に成果が顕著となった業績の中から選考されます。



▲WEB贈呈式の様子

ふじのくに **海外留学\応援/フェア** **開催**  
Studying Abroad Makes Your Future Brilliant

各国大使館などの専門職員によるミニセミナーを開催します。各国の具体的な情報や留学制度、手続きについて直接聞けるチャンスです!

- ◆日時 12月13日(日)午後1時~3時
- ◆場所 オンライン(使用ツール:Zoom)
- ◆対象 高校生、大学生向け(どなたでもご参加いただけます)
- ◆スケジュール(定員:各部門100名)  
セミナー① 13:00~13:20 セミナーA 13:00~13:50  
セミナー② 13:30~13:50  
セミナー③ 14:00~14:20 セミナーB 14:00~14:50  
セミナー④ 14:30~14:50
- ◆参加機関 【大使館】アメリカ/台北/フィリピン/フランス/カナダ  
【留学関係機関】(独)日本学生支援機構/(公財)AFS日本協会  
(一社)日本ワーキング・ホリデー協会

参加申し込みはこちらから!

締切/12月4日(金)

HP [https://s-kantan.jp/pref-shizuoka-u/offer/offerList\\_detail.action?tempSeq=3333](https://s-kantan.jp/pref-shizuoka-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=3333)

ふじのくに海外留学応援フェア2020 検索



留学を考えている方  
海外に興味のある方  
ぜひご参加ください!

【教育政策課】TEL 054-221-3674



電気新聞 静岡新聞 SBS

2020年度 高校生が競う Energy Pitch!  
11月21日(土)-22日(日)

会場:静岡県男女共同参画センター「あざれあ」  
主催:電気新聞(一般社団法人日本電気協会新聞部) 共催:静岡新聞社・静岡放送 協力:中部電力株式会社

大会テーマ 高校生の研究活動での大きなテーマとなっている「SDGs」がキーワード。「社会課題解決」について、具体的なテーマを想定し、プランを提示してもらいます。様々な社会の課題と、エネルギーがどのように構造的に関係しているのか、2050年の未来を描くプランを高校生たちが競います。

高校生が競うエネルギーピッチ



※新型コロナウイルス感染拡大防止のため一般公開はいたしません。高校生が競う Energy Pitch! の詳細な活動内容についてはホームページをご覧ください。

協力:中部電力

事務局:電気新聞(一般社団法人日本電気協会新聞部)メディア事業局内 高校生が競う Energy Pitch!事務局 TEL:03-3211-1555 E-mail:energypitch@denkishimbun.com

広告